

国際看護論演習について

台湾 屏東県 屏東市
美和科技大学 看護学部での演習



奈良学園大学 保健医療学部
看護学科 小児看護学
小池 伝一

1. 国際看護論演習とは…

国際看護論演習とは、看護学科 4年次 後期の科目である。

我が国でも、海外から日本へ旅行に来られる方や、日本へ仕事を求めて来る外国人もいます。このように、**グローバル化している社会の中で、看護をおこなう際にもグローバル化に対応できる人材を育成**する一環として、『国際看護論』という講義があります。

その講義を受け、実際に海外の大学と交流をおこないながら、双方の国の看護実践について理解することを目的とした科目である。

2. 国際看護論演習で訪れた『台湾』とは

台湾は、**九州よりも小さな島**です。

- **国土面積**は、**3万6000km²**
- 島の南北中央に4,000m級の山脈が走り、平野部が少なく、河川も短いのが特徴である。
- **首都は台北**で、南部にある高雄、中南部にある台中、北西部の新竹などが、経済・産業が集中している都市として有名である。
- **人口**は、2026年1月現在 **約2302万人**である。
- 民族構成は、第二次世界大戦後、日本人が撤退した後に中国から移民してきた外省人、第二次世界大戦以前から住んでいた本省人、原住民という構成である。
- **公用語**は、**中国語(北京語)**であるが、台湾語(閩南語)も使用されている。

3. 国際看護論演習で訪れた『屏東市』とは…

1) 屏東県 屏東市

(1) 位置

高雄のすぐ東、屏東平原の都市屏東市は、**高雄市街地の東側にある高屏溪の東岸都市**です。**高雄から川を越えると屏東市という位置関係**で、台湾鉄道の屏東駅を中心に市街地が広がります。1920年、日本統治時代の行政区域整理で、この地が**半屏山の東に位置することから「屏東」と名づけられた。**

(2) 地形

ほぼ平坦な沖積平野屏東市の地理的特徴は、**屏東平原の上にある平坦な都市**であることです。屏東の灌漑当局も、この地域を「**山と川に抱かれた平原**」と言い、屏東市は、**大河の東岸に発達した平原都市**と言える。

(3) 気候

南国らしい暑さと夏に集中する雨から、屏東市は**熱帯季風気候**に属し、**年平均気温は約25°C**です。高屏渓流域では、5月から10月に南西季風や台風の影響を受け、年間降雨量の大部分がこの時期に集中する。

4. 屏東市の医療背景

1) 市内には区域病院・地区病院が集中

屏東市は県都であり、病院資源がかなり集中している。屏東市内に衛生福利部屏東医院、屏東基督教病院、屏東榮民総医院など7つの総合病院があり、特に衛生福利部屏東医院、屏東基督教病院、などは「区域病院」として、一般外来だけでなく、地域の中核的な診療機能を担う病院である。

2) 救急医療の強化

屏東市は、**高雄と連携しながら、県北部の救急拠点として重要な役割を果たしています**。屏東県は南北に長く、山地・半島・離島も含むため、救急搬送と転診のネットワークが重要となります。**屏東県政府**は、県内に23病院があり、屏東基督教病院が重度級救急責任病院、屏東榮民総医院が中等度級救急責任病院に位置づけられるなど、**救急能力の強化を進めています**。市内で多くの急病・外傷には対応できますが、**高度な救命救急、特殊手術、複雑な専門治療は高雄の大病院と連携し、治療に当たっている**。

3) 高齢化と慢性疾患の増加

屏東の医療を考える上で、高齢化は非常に大きな要素であり、屏東県では65歳以上人口が17万1,800人超で、**「5人に1人が高齢者」**という水準になっている。そのため、救急だけでなく、**慢性疾患管理・リハビリ・在宅医療・長期介護の需要が大きくなっています**。屏東市を含む県内全体で「病院で治す医療」だけでなく、**地域で支える医療・介護が重要**になっている。

5. 屏東県 美和科技大学 看護学部とは…

1. 大学の歴史

現在は、**私立総合大学**です。始まりは、**1966年に美和護理専科学校として五年制看護科を開始し、台湾初の私立看護専科学校として開学**されました。2000年には美和技術学院へ昇格し、2010年に美和科技大学へ改称された。

現在は**3つの学部と14学科**、また**5つの修士課程**を持っています。**学生数は約5,500人**、教職員約365人である。

この大学は、看護教育を核に発展してきた大学です。**屏東県の医療人材、特に看護師養成を考える上で重要な教育機関**である。

2. 組織

護理(看護)学院と護理系が中心です。護理学院は、以前の「健康暨護理学院」から改称され、2022年12月に台湾教育部の承認を受け、**College of Nursing**となりました。現在の学部には、**看護系(看護学部)**、**健康照護系(健康ケア学科)**の修士課程、**専門的な修士プログラム**が含まれている。

学制は、**五専**(中学卒業後対象とした5年課程)、**四技**(昼間部4年課程)、**二技**(専門学校卒業後2年課程)、**修士課程**などがあり、**若年層から社会人・現職者までを対象にした「看護人材の一貫養成」型**になっている。

5. 屏東県 美和科技大学 看護学部とは…

3. 教育目標

全人的看護と実務能力を重視している。「専門化・全人化・国際化」した人材育成を掲げている。大学部では、**全人的看護、批判的思考、臨床看護技術、基礎生物医学、コミュニケーション・チームワーク、ケア倫理、責任感、生涯学習などを備えた人材を育成することを目標**としている。

4. カリキュラムの特徴

修業要件は、四年制は4年間で128単位以上、二技は2年間で72単位以上、五専は5年間で220単位以上、修士課程は34単位以上とされており、卒業時には、四技・二技は学士、五専は副学士、修士課程は理学修士の学位が授与される。

教育特色としては、一般教養、看護実務が中心となり、特に近年は、**高齢者ケア、慢性疾患ケア、VRを使った学習、BLS・CPR・AEDなどの救命教育を重視**している。

5. 実習

かなり実務寄りの看護教育である。対象は日間部四技・五専・修士課程の学生とされ、五専では基本看護実習120時間と各科看護実習1120時間、四技では基本看護実習120時間と各科看護実習960時間が臨地実習に充てられている。

屏東県は高齢化と地域医療の課題が大きい地域なので、**都市部の大病院だけでなく、地域医療、在宅ケア、長期介護、高齢者支援と結びついている点が特徴**である。

6. 美和科技大学と本学 看護学科4年次生とのセッション

午前中は以下のプレゼンテーションをおこないました。

- 1) 美和科技大学教員による、台湾で特徴的なケアのプレゼンテーション
 - (1) 終末期におけるスピリチュアルケア
 - (2) 東洋医学(漢方)を基盤とした産後のケア
- 2) 本学4年次学生による、我が国に特徴的なケアのプレゼンテーション
 - (1) 日本における全人的ケアとは
 - (2) 清潔ケア 特に全身清拭について

全人的ケアの特徴 4つ

I【全体を捉えて関わる】

||
・その人全体捉える



身体・心・社会・スピリチュアル

・その人の意向に沿うために
多職種で関わる。

II【存在の脅かしをやわらげる・癒す】

||
・生命を脅かす状況に対して、
そばにいる・触れる・祈る・
歌うことで癒す
・医師と連携して苦痛を緩和する

III【寄り添う】

||
・いつでも共にいて支えになる
・心の声を聴き共に乗り越える
・家族の力になる

IV【その人らしさの尊重】

||
・その人の身近な希望を支える
・その人らしい生き方に合わせる
・人としての尊厳を大切にして
・その人の存在価値を見出して意味づける

なぜ日本人はお風呂に浸かる習慣があるのか？？？



歴史的背景	<p>○仏教の影響 →奈良時代に仏教が伝わり、「施浴」という行為（貧しい人や旅人にお湯を使わせる）が広まる。 →お湯に入ることが「身を清め、心を整える」行為とされた</p> <p>○江戸時代 →銭湯が発展し、庶民の社交の場として定着し、体を清潔にするだけでなく「癒し」や「交流」の場となった</p>
気候の影響	<p>日本には四季あり、冬が寒い国 →冷えた体を温めるためにお湯に浸かると効果的 →湯船に入ると「血行が促進」され、疲れをとるため、自然に「お風呂で温まる」文化が根付く</p>
健康・リラックス効果	<p>お風呂に浸かると「血流促進」「筋肉の緊張をほぐす」「自律神経を整える（リラックス効果）」などの効果がある</p>
生活文化としての定着	<p>日本の家には古くから「家庭用の浴槽」がある →「一日の終わりに風呂に入ることが生活リズムの一部」となっている</p>

6. 美和科技大学と本学 看護学科4年次生とのセッション

午後は以下のプレゼンテーションをおこないました。

- 1) 美和科技大学教員・学生による、台湾での臨地実習
 - (1) 基礎看護実習における導尿のケア
 - (2) 成人看護実習における痰の排泄(タッピング)ケア
 - (3) 小児看護実習における乳幼児のBLS
- 2) 本学4年次学生による、我が国における臨地実習
 - (1) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
 - (2) 成人・老年看護学実習
 - (3) 小児看護学実習

急性期

◆対象者

慢性期急性増悪、手術直後、外傷、急性発症の疾患（心筋梗塞、脳梗塞、敗血症など）、容態が変化した、しやすい人

◆実習病院

2次、3次救急病院、集中治療室（ICU・CCU）、救急病棟、手術室

◆日程 15日

患児との関わり方



【保育園】

0～6歳児の乳幼児が対象

【病院】

0～18歳の子どもが対象

保護者も対象になる（付き添い）

- 視線を合わせて関わることで恐怖感を感じないようにする
- 嘘はつかない ex) 痛くないよー
- 入院生活によるストレスの発散に努める→遊び
- 患児以外の家族も意識する



7. 国際看護論演習における学生たちの学び

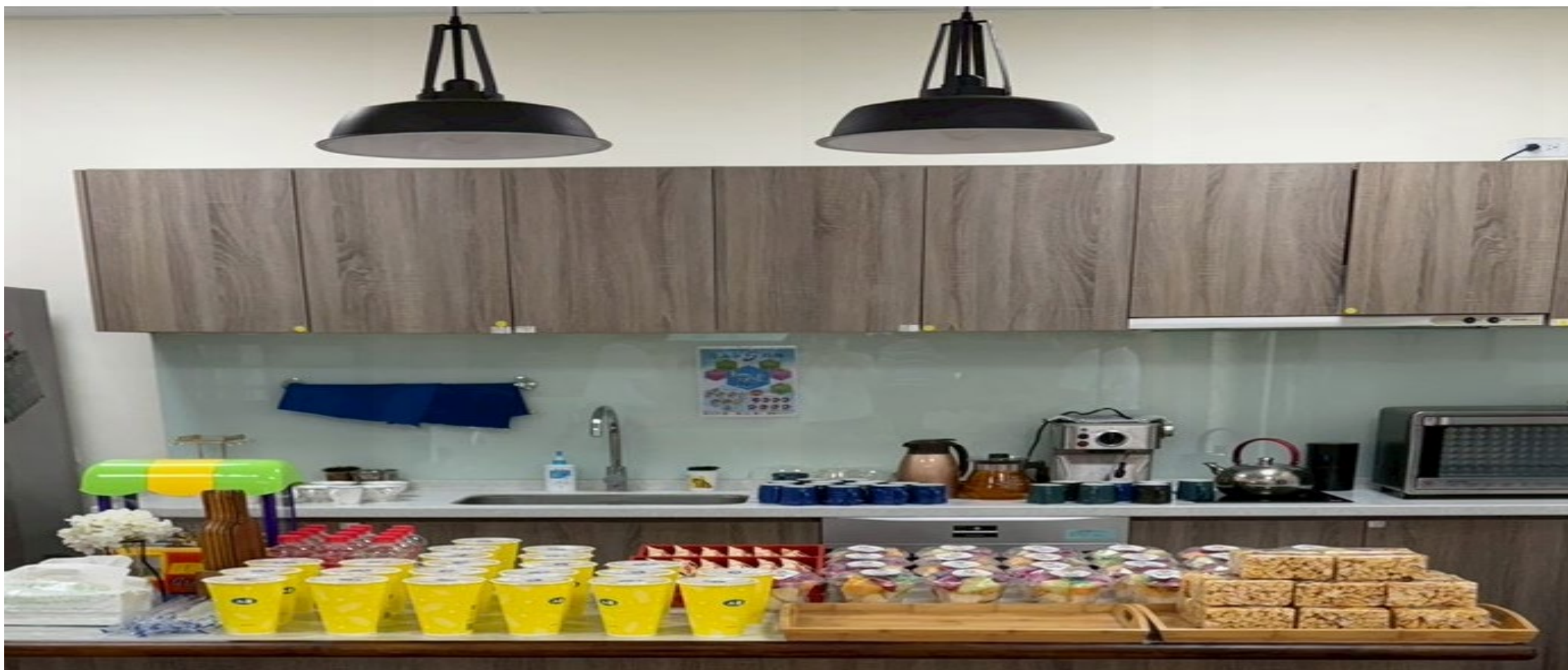
学生たちは、タイトな日程にもかかわらず、たくさん
の見学・プレゼンテーションの中、我が国における医療
文化と台湾における医療文化の違い、それぞれの国に
おける看護教育の違い、看護の質の違いなど、さまざま
な学びを得ることができた。

以下、3名の学びについてご紹介します。

台湾実習では、高齢者施設での利用者さんへの関わり方の違いが特に印象に残った。現地では看護師や介護職員の人数が限られているため、離床センサーや外に出ると音楽が流れる仕組みなど、日本では抑制と捉えられる可能性がある方法も、「利用者の安全を守るための工夫」として用いられていた。

環境や人員配置が異なる中で、スタッフ一人ひとりが自国の制度の良さを理解し、状況に合わせたケアを実践している姿が印象的であった。また、台湾の人々は日本に対して親しみを持っており、実習期間中も「日本の人においしいフルーツやタピオカを食べてもらいたい」という温かい気持ちが伝わってきた。プライベートでも日本を訪れることが多いと話す人も多く、その言葉に私自身とても嬉しい気持ちになった。

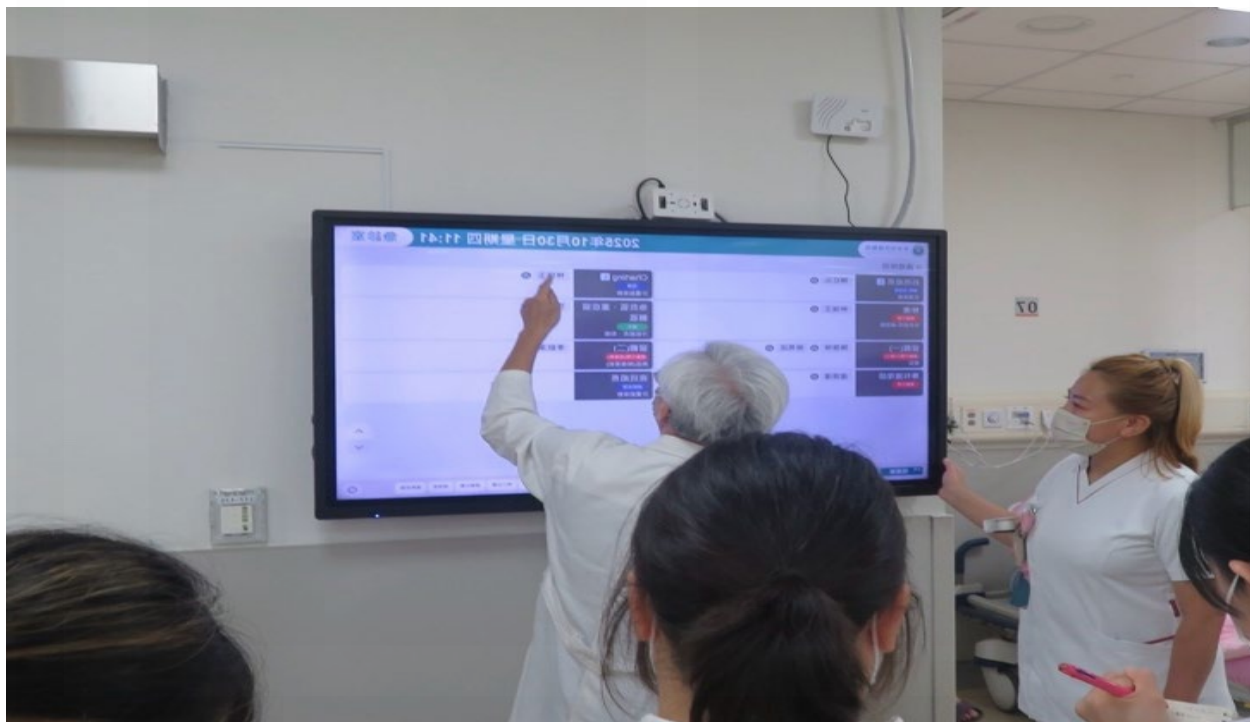
一方で、台湾の方々が自国の魅力について自信を持って紹介する姿を見て、私は日本の良さを十分に発信できていないことに気づかされた。今回の実習を通して、自国の文化や価値観について理解を深めることの大切さを強く感じた。今後は、看護の場面だけでなく日常生活の中でも、日本の良さを自分の言葉で伝えられるようになりたいと考えた。



今回の国際看護学演習では病院見学や大学での講義を受けて、台湾の看護は「技術の習得」が質の高い看護に繋がると考えており、対して日本は「個別性のある看護」。つまり、患者に寄り添うという日本独自の捉え方を習得することで患者の全体像を把握し、質の高い看護に繋がると考えているのではないかと感じた。また、その背景にはその国の医療情勢やこれまでの歴史、価値観が影響を及ぼしていると感じた。実際に台湾の実習はシャドーイングや技術の習得がメインで日本のような看護展開を実習で行うことはない。それは看護師不足という背景から現場にですぐに使える看護師が必要であるからだと学んだ。さらに、医療現場の見学を通して日本の看護ではできるだけ身体拘束にならないようにセンサーマットなどの使用は極力避けることが多いが、台湾では安全に最期を過ごすという観点や看護師不足で見回りの回数を増やすことができないことからセンサーマットの導入などが広がっていた。

台湾は国家試験の合格率の低さや看護職の給料がネイリストとほぼ同じなどの社会的背景から看護師が不足しており、現場ではAIの活用が広がっていた。医療事故の減少や物品の把握が行いやすいなどのメリットの反面、停電などが起こったときにはどうするのだろうか、や、結局は人間の手で投薬などを行うため本当に安全であるのかななどの疑問も残った。

6日間を通して、日本に比べてとても温かく迎えてくれるかたが多く、台湾を好きになってほしい！という気持ちを感じることができました。今回の経験を得て日本人でもそれぞれの価値観を持つように、台湾と日本でも異なる価値観があるため、その国・人の価値観を尊重した看護ができるようになりたいと強く思いました。



【台湾の文化的な産褥ケアについて】

台湾では、日本とは異なる産褥期ケアの文化があった。台湾では産褥期にケアを行わなければ、頭痛や腰痛などの不調が現れるとされ、様々な習慣が大切にされていた。例えば、産後はお腹に子どもがいなくなるために代わりにゆで卵を2つ用意して食べる習慣がある。産後3日目は特別な人に来てもらい、ミカンやりゅうがんなどをいれたぬるま湯で赤ちゃんを沐浴させる習慣もあった。また、産後3～7日には、旦那さんの家に出産報告とお酒をお土産として持って行く。産褥12日目は奥さんの実家に、食べ物をたくさん持っていき、産後のお母さんがたくさん食べる。産後1か月は、親戚全員で食事を取り、殻を赤く塗ったゆで卵やケーキを、親戚に渡すなどの習慣があると知った。

さらに、産後の女性は「陰の気」が強く病気になるやすいとされ、お寺や他の人の家に行くことは失礼になるとされていた。その間は、冷たいものに触れてはいけないとされ、髪を洗うにも、工夫がされており、先に髪を洗い一旦乾かしてから身体を洗うなどの工夫がされていた。産後は、温かいものを身体の中に詰め込むことが必要だとされていて、鶏肉や漢方を使った伝統的なスープが親しまれていた。(図:参照)実際に飲ませていただくと、漢方の苦みなどはなく、比較的飲みやすく、ショウガなども入っているため、身体が温まるような、まさに産後に適したスープであった。

日本では、産後はお祝い事として子どもを出産した母親の身体の回復や育児についてのサポートが始まり、親戚からお祝い事としてお金や育児に必要な物品などが贈られる。しかし台湾では、文化的な考えから身体を温めることや伝統的な漢方などを利用して病気を予防するようなケアが行われていることを学んだ。さらに、自分たちから周囲の家族や親戚などお世話になった人に贈り物をするなどの違いがあった。しかし、方法や考えは違うが、出産した女性を気遣うという考えは同じで、大切にされていることを学んだ。今回の台湾研修では、初めて日本以外の文化に触れる良いきっかけとなり、自分の知らないことが世界にはまだまだあるということを知る良い機会となった。改めてこれから看護師として働くうえでも、自分の価値観だけで判断するのではなく、宗教や国ごとに伝統的な考えがあることを忘れないようにしたいと思った。

